

## 編集後記

決して順風満帆な編集作業ではなかったと思います。18期編集委員会は、当初たった5名の委員からスタートしました。編集委員会の運営についても、従来の運営のあり方の蓄積が必ずしも十分とはいえない状況で、先行きの見通しの悪いなか手探りで進めてきた感があります。また、18巻の投稿募集に対して投稿いただいた学生論稿も、例年よりも少ない7本にとどまりました。

こうした困難に対してはさまざまな方のご協力をいただき、今期も発刊までたどり着くことができました。委員会の規模については、その後の第二次募集にたくさんの方が応募してくださり、結果として20名もの優れた仲間が集まりました。編集委員会の運営に際しては、大勢の方々にお力添えをいただきました。すべての方への感謝を個々に記すことは残念ながらできませんが、お世話になった皆さまにはこの場をお借りして改めてお礼を申し上げます。また、投稿論稿についても、投稿数の少なさをものともせず、水準の高い論稿が数多く集まり、結果として掲載論稿は4本にも上りました。執筆者の皆さまには、敬意とともに、感謝を申し上げます。

難局をなんとか乗り切った体験を束の間の安心に貶めることなく、今期の編集作業の問題を広い視野でとらえると、やはりローレビューの基礎体力の減退に目を向けざるを得ません。委員を確保し、委員会を運営し、投稿論稿を集める。こうした基本を下支えする制度的地盤が次第に弱まっているように思われます。

しかし、ローレビューというプロジェクトは、このまま減退させていくにはあまりにも惜しい意義ないしポテンシャルがあると考えています。編集委員としての立場からは、私自身、法的議論に関心をもって集まってくれた委員の仲間から、査読の場においてのみならず、日常のふとした会話においても、さまざまな観点から法や法学についての視座を与えられ、大変刺激を受けました。また、論文を執筆する学生の立場においても、ローレビューは、その掲載論稿が学生執筆にかかる論文の一定の到達点を示すものとして言及されるように、執筆の際のメルクマールとして、執筆者に対しより高いレベルの論文を執筆するよう動機付ける役割を果たしているといえそうです。ローレビューは、こうした点で、本法学大学院を資格試験勉強の教室にとどまらない学問的営為の主体たらしめる拠点としての重要性を持ち、また可能性を秘めています。

ローレビューが今後もこうした意義を実現し、さらなる発展を遂げていけるかどうかは、ここからが正念場なのかもしれません。その意味で今巻の発刊をもって職責を果たしたこととなるかは心もありませんが、今後のローレビューの成功を願って、これを編集後記とさせていただきます。

東京大学法科大学院ローレビュー第18期編集委員長 河野匡亮

## 御礼

東京大学法科大学院ローレビューは、前号(第17巻)に引き続き、本号(第18巻)も渡部友一郎氏(弁護士・Airbnb)からのご寄付によって刊行されています。

ここに記して、御礼申し上げます。

東京大学大学院法学政治学研究科

## 東京大学法科大学院ローレビュー Vol.18 2023年12月発行

The University of Tokyo Law Review

編集・発行 東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻内

E-mail: sl-lr@j.u-tokyo.ac.jp

<http://www.slrlr.j.u-tokyo.ac.jp/>



※東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会へのご連絡は、E-mailにてお願いいたします。

※法律で認められた場合をのぞき、本誌からのコピーを禁じます。